

高齢化に伴い増える食道裂孔ヘルニア

～腹腔鏡手術で低侵襲な治療を目指す～

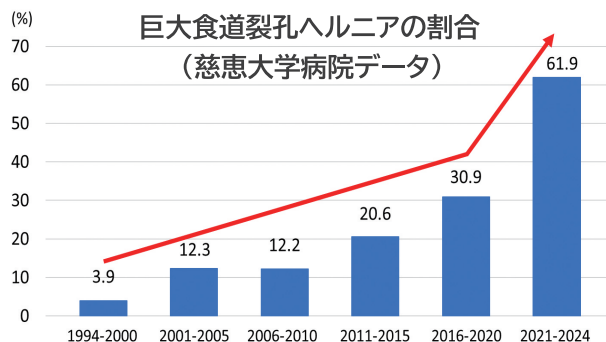


上部消化管外科

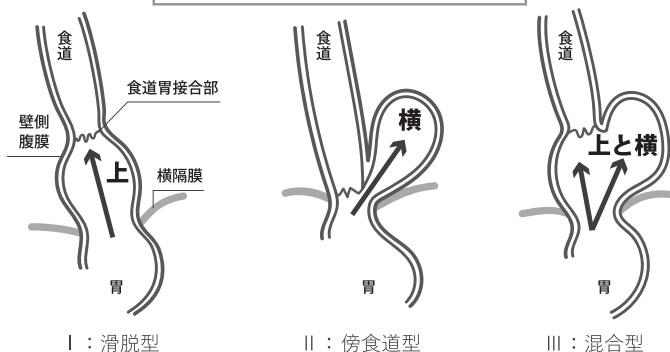
矢野 文章 診療部長

食道裂孔ヘルニアは横隔膜に空いた食道が通る穴(食道裂孔)が緩んで広がり、胃の一部が胸部に飛び出す病気です。中には胃の大部分が胸側に飛び出し、心臓や肺を圧迫、呼吸困難や胸痛を生じる例もあります。主な原因は加齢で、高齢化の進行とともに患者が急増しています。

食道裂孔の種類は、胃と食道の境目が胸部に飛び出す滑脱型、胃の壁の一部が食道の脇を通って胸側に横にはみ出す傍食道型、胃が上と横に大きく飛び出す混合型があります。3cmを超える滑脱型は胃の内容物が逆流しやすくなり食道が炎症を起こし逆流性食道炎になることがあります。また胃の大部分が胸部に飛び出し、心臓や肺を圧迫し胸痛や呼吸困難などを引き起こし動くとき苦しくなる症例もあります。



食道裂孔ヘルニアの種類



胃が食道裂孔より大きく飛び出している場合は、腹腔鏡を使って元の位置に戻す腹腔鏡手術を行います。胃をお腹の中に戻し、広くなった食道裂孔を縫い縮めた後で、胃の上の部分を食道に襟巻状に巻き付ける噴門形成術を行い、食物などの逆流を防ぎます。

慈恵医大の上部消化管外科では、検査から治療までを行っています。食後に胃液の逆流や呼吸困難が頻発する場合は、お気軽にご相談ください。



動画概要

高齢化に伴い増える食道裂孔ヘルニア ～腹腔鏡手術で低侵襲な治療を目指す～

上部消化管外科 診療部長 矢野 文章

